

第 538 回経済学会例会

平成 26 年 11 月 19 日

日本の経常収支：

1885-2014

松林 洋一

我が国の 2014 年度上半期の経常収支は約 5000 億円の赤字を計上したが、この数値は、統計改訂が行われた 1985 年以降で初めての水準となった。経常収支の赤字化は、日本の稼ぐ力の減退を示していると危惧されている。また経常収支が赤字に転化した場合、財政収支赤字がマクロ経済に影響を及ぼす「双子の赤字」が発生するとも言われている。

しかし経常収支の推移が早晚大きな転換点を迎えるであろうと喧伝されている反面、同テーマに関する学術的な研究は極めて蓄積が少ない。経常収支とは、国内外の諸変数の動きが集積し、高度に集計化されたマクロ変数であり、それゆえ理論的・実証的な考察が難しいが、鍵となるのは複眼的かつ柔軟なアングル、視点に基づいて分析を進めていくことである。具体的には、経常収支に関する複数のアングルからの観察、短期的な要因（循環的要因）と中長期的な要因（構造的要因）という複数の視点からの考察を精緻に行っていくことが不可欠である。

本報告では、19 世紀後半から今日に至るおよそ 130 年間の我が国経常収支の推移を、上記のようなスタンスから多面的に分析し、将来の推移、予想についても若干の展望を試みる。そしてこのような考察を通じて我々は、日本経済の循環・成長・発展のダイナミズムの特徴を、開放体系の枠組みにおいてレリーフすることが可能となる。